



肉食恐竜の連続歩行する足跡化石。今回の特別企画展では、長さ12メートルにも及ぶ複製標本が展示されています

県自然博物館に 1億年前の恐竜たちが やってきた

ミュージアムパーク茨城県自然博物館は、自然に関する理解を深めるための施設として、平成6年11月13日にオープンして以来、今年で10周年を迎えます。現在、自然博物館では、10周年記念イベントとして、これまでにない大きなスケールで特別企画展が開催されています。



内蒙古の現在の豊かな自然を紹介します。草原、湿地、砂漠に生育する100種以上の植物標本は必見です



(左)植物食恐竜バクトロサウルスの全身骨格複製標本
(中)初公開！ほぼ完全な形で発掘されたイグアノドン類の全身骨格複製標本
(右)角竜プロトケラトプスの全身骨格複製標本



こうだ 國府田さんからいろいろご説明をいただきました

常設展なら自分で解説できちゃうくらい自然博物館リピーターの私。十周年記念特別企画展と聞いて胸が躍ります。取材に訪れた日は開催準備の真っ最中。そんな中、内蒙古から来県した設営団の李虹さん(リウカウ)にこの企画展の見どころを伺うと、「なんと言ってもコレ！」と指さす先に、天井に届かんばかりの恐竜が！イグアノドンの仲間、昨年六月に中国内蒙古で発掘されたばかりのものだから。この発掘以来大忙しだった李さんですが、「茨城で大勢の人に見ていただけると、笑顔で語ってくれました。」



女性特派員さわやかレポート

文字どおり“お邪魔”しました 特別展設営、潜入ルポ



【今回の特派員】
宮田 はるな



県自然博物館
開館10周年記念特別企画展

恐竜たちの足音が聞こえる

中国そして日本

開催期間

七月十七日(土)～十一月十四日(日)

開館時間

午前九時三十分～午後五時

(入館は四時三十分まで)

休館日

毎週月曜日(ただし九月二十日、十月十一日は開館し、翌日が休館となります)



今、恐竜化石の発掘で最も注目を集めている「内蒙古自治区」

中国北東部の内蒙古自治区のゴビ砂漠地域は、最近、中生代白亜紀(一億四六〇〇万年前～六五〇〇万年前)の大型恐竜や学術的に貴重な資料となる羽毛を持った恐竜などの化石の発見が相次いでおり、恐竜発掘に関して世界で最も注目を集めている地域です。
今回の特別企画展では、姉妹館である中国内蒙古自治区博物館の全面的な協力のもとに、中国から海を越えてやってきた多数の恐竜化石などを展示紹介します。

10周年記念企画展に どうぞ!



ミュージアムパーク
茨城県自然博物館

館長 中川 志郎

県民の皆さま、おかげさまで当館はこの11月13日に開館10周年を迎えます。平成6年、茨城県では初めての自然系博物館として出発して以来毎年40～50万人の皆さまに来館していただきました。魅力ある企画展は、その原動力ですが、10周年記念企画展はさらにパワーアップし、姉妹館である内蒙古自治区博物館との共催によって中国と日本の恐竜の勢揃いを実現しました。この機会にぜひご覧ください。

また、恐竜展とともに当館の10年の歩みにも触れていただき、どうぞ、次の第一歩にも御期待いただきたいと思います。

【特別企画展の主な内容】

中国ゴビ砂漠の恐竜化石大集合
ほぼ完全な形で発掘された体長約十メートルのイグアノドン類や羽毛を持つドロマエオサウルス類などの恐竜化石を中心に、ゴビ砂漠の太古の時代から恐竜が大繁栄していた中生代を経て現在に至るまでの自然環境の変化と生物の移り変わりや、内蒙古の豊かな自然について展示紹介します。



よろい竜のなかまピナコサウルスの化石の産出状態標本

国内の恐竜化石大集合
一九七八年に日本で最初に恐竜化石が発見されて以来、国内十四道県で発見されている恐竜化石のうち、十二道県分を一挙に展示紹介します。

国際友好館の活動を見てみよう
中国、アメリカ、ニュージーランドの友好館の資料や活動内容を展示紹介し、今後の博物館の国際ネットワークづくりについて考えます。

これからの県自然博物館
県自然博物館の十年の歩みと、国際化への対応を含めた「自然との共生、市民との協働」をテーマにした今後の取り組み内容を紹介します。



学術的にも貴重な羽毛をもった肉食恐竜ドロマエオサウルス類の化石



福井県で発見された肉食恐竜
フクイラプトル



ミュージアムパーク

茨城県自然博物館

〒306-0622 茨城県岩井市大崎700番地

☎0297(38)2000

FAX0297(38)1999

http://www.nat.pref.ibaraki.jp/

e-mail:webmaster@nat.pref.ibaraki.jp

ご利用につきましては、P25をご参照ください



リボン
李虹さん、國府田さんとガッチリ握手!

そんなお話を伺いながら、おっと危ない! うっかり者の私は、片隅に置かれた箱につまずいてしまいました。「ああそれ、非常に珍しい物ですよ」と企画展チーフの國府田さん。なんと、羽毛を持った小型恐竜の化石だったのです。恐竜に羽毛!? びっくりして、またつまずきそうになりました。
その他にも、国内各所からやって来た恐竜の化石たち、内蒙古のさまざまな植物標本やトカゲなどの動物たち、そして展示室の入口を飾るという巨大恐竜の足跡など…。未開封の箱に隠されたたくさんのお宝に思いをはせつつ、博物館をあとにしました。夏休み、子どもと一緒に宝箱の中身を確かめに行こう!